

「開拓の碑」

長野県高山村・福井原地区

長野県では戦後、ほぼ全域で緊急開拓事業が行われた。1945（昭和20）年から64年にかけて、490地区に6219戸が入植した（「開拓二十年史」66年発行）。

県の北東に位置し、群馬県と接する上高井郡高山村は人口が約6400人で、果樹を中心とした農業と温泉などの観光の村。戦前、標高750～800mの高冷地にある福井原地区は未開墾地だったが、村では唯一の戦後開拓地となった。

46年5月、地元農家の二、三男や海外引揚者ら14戸が入植した。赤松の伐採跡地だった。地区内には飲料水がなく、1kmほど離れた水源から、竹をつなぎ合わせて何とか引水した。

入植当初は不自由な幕舎生活だった。入植者は山菜を主食として、一畝一畝開墾した。冬期間は、炭焼き、山仕事に従事した。同年7月から翌年5月にかけて、新しい仲間が入ってきたが、将来に見切りをつけて離農する者も多かった。

48年、入植者全員の住居が完成し、電気も導入された。49年、個人の土地配分について協議し、一戸当たり一町七反の区分けが決定。53年には簡易水道の工事が行われ、翌年完了し、飲料水の心配はなくなった。営農形態は、陸稲、大豆からバレイショ、野菜になり、さらに酪農主体へと変化していった。84年には畑五町歩の基盤整備と農道の舗装を行い、大切な農地の有効利用を図った。

開拓地の農道沿いに、開拓記念碑がある。入植者が93（平成5）年8月に建立したもので、碑銘は「開拓の碑」。裏面には、碑文と入植者及び福井原二世会の氏名が刻まれている。

碑文の末尾には、「未開の松林を切り拓き、次代の私たちに永遠の恵を与えてくれた先代の幾多の苦難と忍耐、汗と努力に心から敬意と感謝を表すとともに、二度と戦争をしない決意をこめ、ここに記念碑を建立して、その偉大な功績を後世に語り継ぐものである」と記されている。

福井原地区 「開拓の碑」

- ①調査日 2018年5月28日
- ②所在 上高井郡高山村
- ③地区の沿革 赤松伐採跡地に昭和21年14名、22年に2名が入植
- ④設置年月日 平成5年8月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 開拓の碑 長野県知事 吉村午良 書
- ⑧碑文（裏面） 昭和二十年、第二次世界大戦後の混乱と不安の中で、食糧増産と自作農創設のために荒地や山林を切り拓き、全国各地で緊急開拓事業が行われた。
ここ福井原は、赤松伐採跡地に昭和二十一年に十四人、二十二年に二人が新しい生活を求めて入植し、開墾鋤による人力の開拓が行われた。青年達は一鋤一鋤に明日への希望を託して、まさに血と汗と涙の結晶の土地が生み出された。昭和二十三年には電機の導入、二十九年には簡易水道の工事が行われ、生活向上への努力がなされた。また、昭和五十九年には基盤整備と農道舗装が行われ、大切な農地の有効利用が図られている。
開拓が始められてから四十七年、この地も時代の変化とともに大きく変貌をとげたが、当時の開拓精神を受け継ぐ九世帯四十三人が現在もこの地を大切に守り発展させている。
未開の松林を切り拓き、次代の私たちに永遠の恵を与えてくれた先代の幾多の苦難と忍耐、汗と努力に心から経緯と感謝を表すとともに、二度と戦争をしない決意をこめ、ここに記念碑を建立して、その偉大な功績を後世に語り継ぐものである。
一九九三年八月吉日 建之 入植者氏名 福井原二世会氏名
- ⑨現在の状況 地区内に建立され管理されている。

